

# ひとを育てる活動

## 病気休学のエリックへの送金

67号で報告した病気休学中のエリックの支援会員の方から、振り込み通知が届きました。新しい奨学生のためではなく、エリックの治療に使って下さいという用途が記されていました。



6年に進級が決まっていたものの、4.5月の夏休み中に病気になり、6月の新学期から休学しているエリック  
(写真は5年生時)

エリックの通うブラクール校の運営主体は住民組織です。携帯電波が届かない村の学校や子どもの情報は、定期的にスララ町のPFP事務所を訪れる父母会役員や教師たちによってもたらされ、私たちのもとにも届きます。しかし、エリックのように、親類宅に寄留してブラクール校に通っていたケースでは、夏休みや病気で親元に帰ってしまうと状況把握が難しく、退学につながるケースがたくさんあります。

健康でも学校に行けない子どもがいる山の村で、現地も私たちも、休学・退学の子どもの奨学金枠を待機中の子どもにと、新奨学生支援への切り替えをすぐお願いしてしまいがちです。今回の振り込み時の「今、他の子ども支援は考えられない」というメッセージに、はっとしました。縁あって支援をした子どもの病気をほっておけない優しさを、もっと真摯に受け止めるべきではと思いました。順調に進級・卒業し、国家試験に合格した数と同じくらい、何人が再び学業に戻ったかも大切にしたい数字です。

エリックの自宅があるブハガンは、2009年度緑の募金事業実施の村です。事業モニターの際の様子を見てきますと、PFPから連絡がありました。

CMIPを通じて支援している子どもの中にも、長期療養が必要な奨学生がいます。精神疾患でハイスクール休学中のエドナです。今年度支援枠に余裕があるカレッジ奨学金は、奨学生追加採用ではなく、エドナの医療費に充てさせていただきます。

## ミアソン寮とノビシエート寮近況

ハイスクールの全寮制をやめ、親元から通学する方針に変更してほぼ4年になります。中退者数が減少した、経費が安く済むなどよい面とともに、家の近くに学校がない子どもは親元からではなく、町の親類宅に寄留したり、共同でアパートを借りるケースが多く、学習環境に問題がある場合も出てきました。ミアソン寮の有効利用を鑑み、再度寮生を募集しています。

寮を訪ねた11月30日は、革命の英雄ボニファシオを記念した休日のため、賑やかな出迎えを受けました。1年生2名、2年生7名、3年生1名、寮長で4年生のローズマリーの計11名です。1年生のザイラが小柄で幼く見えるため、長姉ローズマリーからザイラまで11名の兄弟姉妹を、寮母のヘルメニアが面倒を見ている大家族の雰囲気がありました。学習面でも助け合っているようです。

カレッジ奨学生10名は、国立MSUの1名を除きGFIカレッジに在籍で、補修したノビシエート寮で共同生活しています。訪問時には、会計士国家試験に合格したクリストファーが、母校で会計学を教えながら、寮で後輩の勉強をみていました。

1年生ながらしっかり者のジェニーが財布を預かり、一人一食10円の副食予算で、バランスの良い献立を作っています。夕食は穏やかで暖かい雰囲気の中、いただきました。



## 2 教室増設のナブル鎌ヶ谷小学校

2011年6月の開校時は、生徒数が100名ほどだったナブル鎌ヶ谷小学校。11月には192名になりました。ICECK支援で急遽2教室増設され、ゴンサロ先生と助手のマイラさんが2部制で教えています。さらに有資格教師を1名雇用できるように、WE21ジャパンさいわいに給与支援を申請中です。